

ここがポイント ……………

見取るポイントを押さえる

1 学習の様子を見取る

☆「評価」には……

「記録に残す評価」と「指導にいかす評価」（2章-6）があります。いずれの評価も、それぞれの趣旨に沿って計画的に進める必要があります。

☆観点別学習状況の評価の総括

観点ごとの評価の総括の場面は次の3段階であることが多いと考えられます。

- ①単元（題材）における総括
- ②学期末における総括
- ③学年末における総括

評定への総括の方法については各学校で共通理解を図ることが大切です。その際、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（国立教育政策研究所）及び「学習評価の手引き」（神奈川県教育委員会）が参考となります。

記録に残す評価

単元（題材）における観点別評価の総括については、必要以上に評価機会を設けて評価資料の収集・分析に多大な時間を掛けないようにすることが重要です。

単元（題材）の最初の方では、全員を「おおむね満足できる」状況（B）として、「努力を要する」状況（C）の生徒のみ記録し、この時点では評価を確定せず、指導を重ねていくことが考えられます。

単元（題材）の後半からは、「十分満足できる」状況（A）と判断できる生徒も見取れるようになり、授業中での評価を確定していきます。

単元（題材）の終了後に、ペーパーテストや実技テスト、ノートやワークシート、完成作品等から再度評価し、必要に応じて修正を行った後、記録に残します。

このように「ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期」において「おおむね満足できる」状況（B）にあるかどうかを評価していきましょう。

見取りのポイント

大切なことは、本時で生徒に身に付けさせたい力は何か、どういう状況になったら力が身に付いたといえるのか理解しておくことです。

どの学習活動で、生徒がどのような反応をするのか、想定してみましょう。こんな回答をするだろう、こんなことができるだろうといった生徒の状況を想定しておき、想定した生徒の姿が現れたときに評価します。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

見取りのヒント

評価（C）の生徒がどこでつまずいているかの視点で見取ることが大切です。生徒の読む・書く・話す・作業・集中・学習用具の用意・情緒の安定……などを考えてみましょう。

評価（C）の生徒が多いと感じたら

生徒がつまずきそうな場面を想定して授業を組み立てていましたか？学習の様子を見取りながら、具体的な手立て、ほかの資料、解答のヒントなどを提供しましょう。



評価の記録

評価にあたっては、記録シートの活用が考えられます。評価方法に合わせて、使いやすいシートを用意するようにしましょう。

〈例〉 「記録の取り方」

「クラスの座席表」を使って（家庭基礎）

○/○	「皮付きりんご1個」のエネルギー量の栄養価計算ができる〈知識・理解〉					日付	本時の評価規準
1番 0000	12番 0000	7番 0000	9番 0000	18番 0000	20番 0000		

○番： 名 前
 評価〔(A)、(C)で記入〕
 コメント〔簡単なメモ程度〕

評価 (A)、(C) の生徒のみ記入します。

実習・実験、話し合い活動等、グループの座席表を作成して、同様に記録するとよいです。

「クラス名票・教務手帳」を使って（工芸Ⅰ）

○年○組 「誰のためのカップ」						
	日付	6/1	6/3	6/8	6/10	
		<評価規準> 使う人の気持ち等を考えた制作に関心を持ち、主体的に発想し制作の構想を練り、制作方法を理解し、創意工夫して制作しようとしている【工芸への関心・意欲・態度】				
1	○野△夫	c	B			
2	△川○郎	c	c	c	c	
3	◎田○実		c	B		
39	○木△太	B				
40	○本○子	B		A		

単位時間ごとの評価規準を記入します。

単位時間ごとの取組の様子を継続的に観察し、変容を見取る場合は、単元（題材）の評価規準を記入します。

評価 (C) の生徒について、継続的に見取りながら (B) への変容を目指す指導にいかすために、この記録を活用することができます。

☆「本時の評価規準」では、

どのような状況になったときに (B) と評価するのかを明確にしておきます。

単元（題材）による「指導と評価の計画」（2章-5）に基づいて、各授業時間の観点別評価規準について評価します。